



# 神戸フルーツ・フラワーパーク における道の駅について

## 実現!

**Q 坊やすなが議員** 一般質問 (平成27年10月27日)

## 日本初!地域が地域の財産として運営する道の駅「神戸北(仮称)」への協力を



平成29年3月に神戸フルーツ・フラワーパークでオープン予定の「道の駅」については、7年越しの要望で実現するものです。昨年周辺で650万人超が訪れた、神戸最大の観光地に道の駅が出来るという事は非常に喜ばしく、当局の皆さんの努力に敬意を表すとともに感謝したい。

今回の道の駅は、日本で初めて地域の商店や企業が出資し、まちづくり会社をつくりその会社が今回「国土交通省による“重点道の駅”」競争の中で選ばれた。地域の方が地域の財産として運営していく道の駅になることは、当初考えてきたことが形になるという事で非常にうれしい。

そして、この度「道の駅」の物販・飲食施設の事業者が決定したところですが、フルーツ・フラワーパークが出来た歴史からも様々なながらみがあり、フルーツ・フラワーパーク経営の足を引っ張ったという事は否定できない。だからこそ必ず成功させなければならないと思っている。

昨年から再整備しているフルーツ・フラワーパークの新たな農業振興事業との連携も含めて地域産業の活性化に向けてどのような事業計画を考えているのか伺います。

また、農産物の販売にとどまらず神戸セレクション選定商品や「灘の酒」、「神戸ワイン」などの神戸ブランドを全面に押し出した商品構成をすることにより、市民のみならず神戸を訪れる多くの人々に対して神戸の良さを発信する大きなチャンスになるのではないのでしょうか。

例えば、神戸ビーフを食べたいという人を店に連れていく時、本物志向の店を多く知らない方でも、この道の駅では本物志向に対応した本物を出す事により、良質のお客を固定客として固めていき、そしてリピーターを増やしていく。このように本物志向での運営が出来るよう神戸市からの協力をお願いしたい。

## 地域支援に特化した職員を!

**Q 坊やすなが議員** 市民参画推進局 (平成27年10月2日)

## 地域をよく熟知し 地域の中心になって施策を積極的に進めていくことができる「まちづくり専門職」が必要では

現在、自治会の維持すら難しい地域がある中でコミュニティー施策の基本方針を検討しておられますが、地域から相談があれば話を聞くというこれまでの受け身のスタンスは変わっていないのではないかと感じております。

江戸時代では、地域のことはお寺と庄屋さんを中心となって決めていったものです。例えば、災害が起こっても基本的にはそのコミュニティーの中で物事を処理していく、教育、福祉、経済活動もしかり、地域のことは地域でと300年間行われてきました。しかし明治維新後、多くの権限や仕事を行政が取り上げた結果、次第に地域の役割、責任感がだんだん希薄になり、地域や家族の“絆”も弱まってきているというのが現状だと思います。

私はかねてから区役所に地域のことをよく熟知し、地域の中心になって施策を積極的に進めていくことができる「まちづくりの専門職」が必要ではないかと思っておりました。私自身ニュータウンの自治会活動にて、地域の様子ができるのに2~3年の時間がかかりました。短期間で担当者を移動させるのではなく、じっくり腰を据えて、北区には北区のプロをつくることをすべきだと思っておりましたが、どのような認識をお持ちなのかお聞きしたい。



**A 久元市長**

## 地域産業が活性化するように事業者と連携を図る

現在、公募により選定した地元の事業者と道の駅設置に向けた協議を進め、平成28年度中のオープンを目指しています。

事業計画によると市内産農産物の販売、神戸ビーフなどの市内産食材を活かした飲食メニューの提供、近隣アウトレットや観光農園などと道の駅を結ぶ無料バスの運行、土産物として灘の酒や神戸ワインなど神戸ブランド産品販売を通じた地域産業と連携することにより農村地域を活性化させるといったものであり、市としても事業者と共にその実現に向けて準備に万全を期したいと考えています。

一方、パーク内では、農業ICTを導入した実証事業をはじめとする新たな農業振興事業を神戸市が民間事業者や農業団体等と協働して平成26年度から順次準備を進めております。

神戸市としても、例えばパーク内で生産された低カリウムレタスなどの農産物を道の駅で味わっていただく機会を設けるなど、事業の成果をフィードバックしPRする場として道の駅を活用していきたい。

この度道の駅事業者は、担い手育成の観点から、道の駅の直売所エリア内に市内若手農家が販売できるスペースを設けることや、ファーマーズマーケットを開催し、6次産業化や食農連携で生産者を支援するとともに、観光などの異業種とも連携して地域と一緒に継続的な取り組みをしたいと計画している。

神戸市としても、道の駅の情報発信機能を活用し、神戸の農業や観光、神戸ブランドなどの情報を広く発信することで地域産業が活性化するように、事業者と連携を図って参ります。



決算特別委員会 市民参画推進局



9月議会 一般質問

大きく前進しました!

**A 岸田市民参画推進局長**

## 地域支援に特化した職員育成に取り組みたい

地域におきましては問題が複雑化・多様化するというような地域課題がございますので、そういったものを解決していくためにはやはり専門的な知識やスキルを持った地域活動支援のいわばプロフェッショナルを体系的に育成する必要があると考えております。

実際、区役所からは、まちづくり経験のある職員を配置してくれというような声や、地域からも短期間で職員を異動させては困るといったような声も聞いております。

プロフェッショナル、地域支援に特化した職員ということでございますので、現状の人事制度ではなかなか難しいというふうに思われますけれども、市民参画推進局にとってはやはり検討していくべき大きな課題だというふうに考えております。しっかりといろんな人の意見を聞きながら、具体的なものの何が出来るかということに関して取り組んでいきたいと思っております。



お問い合わせ・あらゆるご相談は  
神戸市議員

坊やすながまで

〒651-1301 神戸市北区藤原台北町2-11-6  
(※旧 藤原台事務所に移転しました)  
TEL 078-983-1711 FAX 078-983-1719  
e-mail bo.yasunaga@gmail.com